

マイケル・J・レイシー

Michael J. Lacey, MS

略歴

米国ボストン・サイエンティフィック社 医療経済研究部ディレクター
マーケティング・スペシャリスト

マイケル・レイシーは、ボストン・サイエンティフィック社の医療経済・成果リサーチ担当部長 (Director of Health Economics and Outcomes Research) であり、職責の一端として、ボストンの製品構成および医療経済リサーチグループの取りまとめ全般に関わる事柄を第一義とする医療経済リサーチ戦略の立案を担っています。医療経済グループは侵襲性を最小限にした外科用製品の臨床および経済的価値を明らかにするリサーチに重点を置いており、経済、価格、医療の政策研究を通して、医療保険制度での新しいテクノロジーに関する償還と保障の分野について支援業務を行っています。

レイシー氏の最近のリサーチは、薬剤をコーティングしたステント、GDC コイルを用いた経皮的動脈瘤修復術、胃食道逆流症への高分子液体注射などの療法について見込まれる費用有効性など、心血管および脳血管疾患分野に焦点を当てたものです。最近の医療政策リサーチでは、医療保健制度における新しいテクノロジーに関する保障の基準作り、医療機器に関する治験の償還、メディケア保障諮問委員会 (Medicare coverage advisory committee: MCAC) での医療機器産業の代表への支援などで、米国メディケア (高齢者・障害者医療保険制度) 行政官と協力して仕事をしています。また、AdvaMed (米国先進医療技術工業会) の新テクノロジー保障基準小委員会のメンバーでもありました。

ボストン・サイエンティフィック社に加わるまで、レイシー氏は製品開発の世界戦略業務においてスミスクライン・ビーチャム製薬の医療経済担当準取締役として、世界の製品開発および同社の世界規模の価格決定グループの仕事に携わっていました。

スミスクライン・ビーチャムに加わる前は、ハーバード大学公衆衛生学部で医療政策管理の修士号を取得しました。これは医療経済、政策分析、医療保険制度の戦略的管理に眼目を置いたコースです。この時期にはまた、世界の保健と人のマーケティングについて、ハーバード危機分析センター (Harvard Center for Risk Analysis) およびメルク&カンパニーで医療経済学の実務研修を終了しました。大学院入学の前は、マサチューセッツ州ブルックリンの医薬品経済評価研究を専門とする医療経済コンサルタント集団、ポリシー・アナリシス社 (Policy Analysis Inc. : PAI) で準研究員として勤務しました。

レイシー氏はこれまで、多くの成果リサーチおよび医薬品経済研究の中心的研究者として活躍し、「心不全の入院費用における Coreg (カルベディロール) のインパクト (米国心臓病学会誌、2001 年 5 月)」、「健康管理使用における組み換えヒト DNA 分解酵素治療の有効性および嚢胞性線維症患者におけるコスト (薬物療法年報、1995 年)」、「脳卒中高危険度患者の発作防止におけるチクロピジンの費用対効果 (脳卒中、1994 年)」、「小児期の水痘ワクチン接種：便益と費用の分析 (小児学会誌、1994 年)」、「インスリン非依存性糖尿病の経済負担 (米国医学学会誌、1989 年)」などの論文を共同執筆しています。